

カテンソウ

Nanocnide japonica Blume

イラクサ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

石川県ではきわめて個体数の少ない種類である。生育地もごく限られている。(現況:RO)

形態

茎は数本が叢生し、細く、紫褐色を帯びる。葉は互生で、葉身は扇状卵形で先は丸く、数対の鈍鋸歯があり、基部は切形である。葉身とほぼ同長の葉柄があり、葉柄の基部には托葉がある。雄花序は茎頂に、雌花序は上部の葉腋につく。

国内分布

本州～九州に分布する。

県内分布

中能登区のヤブツバキクラス域、すなわち石動山系の北側、邑知湯低地帯に分布する。

生態など

高さ10～30cmの小形の多年草である。開花期は4月。花色は淡緑である。ほふく枝を出してふえるので群生することが多い。花粉の散布は内側に曲がっている花糸が跳ね返ってまく。果実は瘦果で卵形である。

生育環境

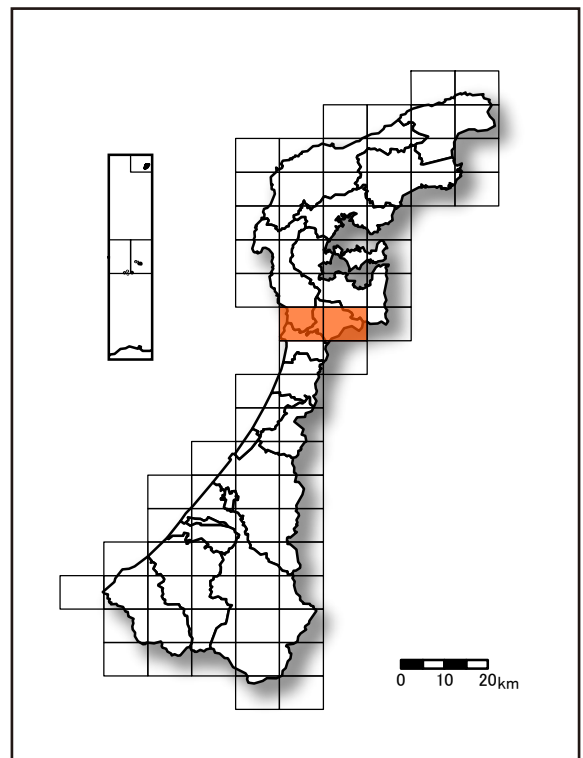
低山から山地の樹林内や林縁の陰湿地に生育する。

危険要因

踏みつけ、管理放棄、自然遷移。



林 二良・1996年4月7日



県内の分布